

# 西光寺だより

第一六五号 令和六年 五月一日発行

## ◆先月の報告◆

①四月一〇日（水）西光寺本堂にて追弔会・春季永代経法要を十四時・十九時で厳修致しました。

仏説阿弥陀経のお勤めの中、亡くなられた講員一〇名のお仲間を偲びお焼香・お念仏をさせていただきました。引き続き、春季永代経法要をお勤めし、先人の方が続けて下さった西光寺とのご縁を通してお念仏したことであります。

引き続きましてのご法話。

布教使の高島先生から、小林一茶の俳句などを紹介していただき、仏さまの思いにふれたことであります。

また、夜のお座ではいつもそばにいて下さる阿弥陀さまの存在に気付くことの大切さを味わいながらお話を聞かせていただきました。

そんな中、仏説無量寿経の中にある和顔愛語のお言葉をいただきました。少しそのお話を載せさせて頂きます。

### 〃和顔愛語〃

穏やかな顔と優しい言葉のこと。「仏説無量寿経」の中の言葉ですが、法蔵菩薩（阿弥陀如来が仏になる前のお姿）が、悩み苦しむ人々を救うために四十八の願い（本願）を建てられて、計り知ることができない年月をかけて限らない修行に励まれた時のお姿の一つとして、次のように出てきます。

「和顔愛語先意承問。勇猛精進志願無倦」

表情はやわらかく、言葉はやさしく、相手の心をくみ取ってよく受け入れ、雄々しく努め励んで少しもおこたることがなかった

口元が見えないマスク生活が長期化し、他者と距離を取ることが求められ、コミュニケーションの減少が心配されていた時は、日々どのように過ごされていたでしょう。

心穏やかな日ばかりではないかもしれません。そのような時だからこそ、今一度、穏やかな顔と優しい言葉を意味する「和顔愛語」という仏教の言葉を思い返してみましよう。

皆さんは誰かの笑顔でホッとした経験はありませんか。何気ない挨拶とともに柔らかい表情が添えられているだけで、相手の思いが自分に向けられ、心を通わせることができていると安心します。

きっと、自分を思いやってくれている優しさに気付き、自分も相手に寄り添おうと自然と優しい気持ちが生きてくるのかもしれません。このような積み重ねが、生きる希望へとつながるのでしょうか。

同様に、誰かの声を聞いて自然と表情が和らいだ経験はありませんか。顔が見られなくても、声を聞くだけで安心し、笑顔になっている自分に気が付きます。そして、会話を重ねるうちに相手を気遣う優しい言葉が湧き上がってきます。

「穏やかな顔」とは、必ずしも目元や口先だけで読み取るものではなく、声や会釈からも感じ取ることができるはずです。おそらく、相手を思いやることで「優しい言葉」は生まれ、相手の思いやりを安心して感じ取ること、**「穏やかな顔」**は生まれるのではないのでしょうか。

さまざま不安が続く今日、自分は一人で生きているのではなく、必ず、誰かから大切に思われていることを、どうか忘れないでください。（本願寺新報）

また「永代経」について布教使の先生は次のように語られました。

「長く」は終わりがあるという意味ですが、「永代経」の「永く」は終わりがなく続いていくという意味であります。

代々続いてきた先人の歩みに感謝し、皆さまとの尊いご縁に感謝しながら、これからも続いて行ける永代経のご縁をいただいたことでもあります。ありがとうございます。ございました。

「永代」和顔愛語



合掌

② 四月二十五日（木）西光寺太鼓楼にて第二回総代会を行いました。永代経の際に西光寺講議長より、昭和に作られた西光寺講規約について見直しを図ることと、講金の一律化のお話があり、来月の総会に向けて協議を行いました。ありがとうございました。

③ 四月二十八日（日）西光寺本堂にて花まつりを行いました。近隣の子供たちやご家族が参拝され、仏教の開祖お釈迦さまの四月八日の誕生をお祝い致しました。ようこそのお参りでございました。



### ◆五・六月の行事◆

・五月二日（木）

総会

午後六時

西光寺本堂

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>